

プレス／板金工場に必要な 生産管理の考え方と方法

～伝票発行機状態のままだと納期対応が十分にできない!～

(株)ほんま 本間峰一*

混乱するプレス／板金工場の 納期変更対応

プレス／板金工場の中心は、親会社や親工場からの手配オーダーを基に製造する受注生産型の製造工場だ。大半が親会社との継続取引の延長で製造しており、今までは要求納期や要求品質を守って製造していれば安定経営を実現できた。親会社のビジネス拡大とともに急成長したプレス／板金工場も多い。

コロナ禍を契機にプレス／板金工場をはじめとする部品会社を取り巻く環境が大きく変化している。変化の要因は、部品会社の生産体制に起因するものと、親会社など取引先の生産に起因するものの二つに分けられる。最近取引先による納期変更対応で悩まされている部品会社が増えており、生産変更対応で右往左往する製造現場も多い。

1. 部品会社の生産体制に起因する混乱要因

(1) 人手不足が加速している

部品会社の生産体制に起因する混乱の典型が、現場作業員の人手不足問題だ。高度成長期に就職した熟練工の高年齢化に少子化の流れが重なったことで製造工場の現場労働者が絶対的に不足するようになった。中堅・中小の板金／プレス工場は3Kイメージも強く、新規従業員を採用することも難しい。外国人技能実習生などの採用で人手不足を補ってきた工場も多いが、コロナ禍でそれも

難しくなった。

一人でもコロナ感染者がでると工場を休業しなければならないということにはなくなったが、ぎりぎりの人数で製造している綱渡り製造ラインはかなり残っている。人手不足は協力元の外注会社でも同じ状況にあり、自社の工数が足りなくなったからといって、あわてて外注会社や派遣契約社員に支援を依頼しても簡単には対応してもらえない。

(2) 納期通りに材料や部品が入ってこなくなった
プレス／板金工場の資材調達、製品組立型の工場に比べるとあまり重視されてこなかった。ほとんどの材料は材料商社に注文すればすぐに納品された。リードタイムのかかる特殊材料は親会社との相談による先行注文手配や親会社からの支給で対応することができた。

コロナ禍による混乱は資材調達面にも影響が及んでいる。一部の材料が入手難になったのに加えて、ブルウイップ効果といわれる需要変動の増幅現象(図1)、物流停滞などの影響もあって、材料が要求納期通りに入ってこない問題が起きている。ウクライナ紛争による原材料や天然ガス、特殊ガス不足なども心配されており、プレス／板金工場でも資材調達への監視を強める必要性が生じている。

2. 取引先の生産管理に起因する要因

(1) 内示情報があてにならなくなった

中堅クラスの部品会社の製品は、複数の製造工程を経て生産されるケースが多く、親会社からの注文で生産開始したのでは要求納期に間に合わない。そこで親会社からの注文情報ではなく内示情

* (ほんま みねかず) : 代表取締役
URL : <https://homma-consulting.jp/>
TEL : 422-34-1864 FAX : 0422-34-187